

第14回日本涙道・涙液学会総会 モーニングセミナー 4 (MS4)

2026年8月2日(日) 7:45 ~ 8:45
パシフィコ横浜ノース 第4会場 (G403+404)

見逃さない抗がん剤関連流涙症 〈抗がん剤治療患者を支える涙道診療連携〉



座長 鶴丸 修士 先生 医療法人耀瑛会 鶴丸眼科

S-1に代表される抗がん剤に起因する涙小管閉塞は診断が遅れると、涙管チューブ挿入ができず、ガラス管を用いたC-DCRや涙嚢移動術しか治療方法がなくなります。早期診断、治療でもっとも重要なのは「腫瘍内科医と涙道治療医の連携」です。今回のセミナーでは、乳腺内科医の徳留なほみ先生(静岡県立静岡がんセンター乳腺腫瘍内科部長)と涙道治療医である澤明子先生(兵庫県立尼崎総合医療センター眼科医長)のお二人をお招きしました。徳留先生からは、最新の薬剤知見に裏付けられた眼有害事象への対応を、また澤先生からは院内連携の実践の工夫をお話いただきます。そして、我々涙道治療を行う医師にとって各病院、また地域において、今後どのような対応、また連携を確立していくべきなのか、重要なヒントを得る絶好の機会になると思います。



講演 1

乳がん治療における眼有害事象のマネジメント

徳留 なほみ 先生
静岡県立静岡がんセンター 乳腺腫瘍内科



講演 2

尼崎総合医療センターにおけるS-1(経口抗がん剤)による涙小管閉塞予防のための院内連携について

澤 明子 先生
兵庫県立尼崎総合医療センター 眼科